

平成29年 7月12日

報 告 書

大田原市広報広聴委員会委員長 大豆生田 春美 様

大田原市議会 第2班班長 高瀬重嗣

大田原市議会報告会実施要項第9条第1項の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

1. 日 時 平成29年 6月25日（火） 午後7時00分～8時30分
2. 会 場 JAなすの親園支店
3. 担当議員と役割
【担当議員】
 - 高瀬重嗣 （班長）（司会者）
 - 小野寺尚武（総務常任委員会発表者）
 - 藤田紀夫（民生 “ ”）
 - 秋山幸子（建設産業 “ ”）
 - 千保一夫（文教 “ ”）
 - 小林正勝（建設産業常任委員）
4. 参加者 別紙受付表のとおり
 - ・市内 21名（男性19名、女性2名）
 - ・市外 1名（男性1名、女性0名）

5. 意見交換会の内容

Q 宇田川は今 120 戸あるが 10 年後には 100 戸残るか心配。議員たちはどのように考えているのか。

A 親園地区では減っているという感じはある。皆さんはどう感じているか。大きな都市では集中すればいいという話もある。コンパクトシティを目指しているところもある。我々はどうしても農村地帯にいて広大な土地があるので一か所に住むわけにはいかない。

Q 市街地に近い方では過疎的な心配はないのか。

A (参加者) 自治会未加入者がいる方が問題。

A 町うちでも今年私の町内から小学校にあがったのは 2 名。育成会全体でも 11 名。敬老会は逆に増えて 130 名くらい。空き家が多くなってきて、どうなるのかなと思っている。どの議員も、市当局も今は一番気を使っているのではないか。いろんな手を打っても国の施策を使っても効果が出てこない。私の町内では自治会全部で子供たちに戻ってきてもらおう運動を行っていて、今年は 2 軒戻ってくるようになった。なんといっても働く場所と税金だ。税金が安ければ戻ってくるのではと思っている。

Q 働く場所を作ることは議会がやらなければならない仕事だ。働く場所を地元によく作るという、見通しはないのか。

A 増えるという話ではないが、東芝は本体が大変な時に大田原の工場はうまい具合にいった。新しい工場を誘致するというのはそう簡単にいかない。

A (参加者) 移住定住のサポートの仕事をしており、様々な方策を用いて大田原市、栃木県に人口誘導を図っている。大田原に 800 軒ほど空き家空き店舗があるが必ずしも空き家バンクに全員が登録するわけではない。持ち主がわからなかったり相続ができていないと売買ができない。また一つのポイントとして「継業」をどう行うかが問題。自分の子供ではない人に家業や伝統文化を継いでもらう、マッチングを一生懸命やろうと考えている。UIJ ターンのうち効果的なのは U ターン、大田原出身の学生さんや、お孫さんに呼びかける「孫ターン」などもやっていきたい。

Q 国や県でそういった一体的な対策はあるのか？

A 地方消滅で話題になった増田寛也氏の研究所が今朝の新聞で日本国内に九州の面積以上の所有者不明の土地が存在する、と打ち上げた。空き家対策も含めて国会での法令制定の動きを作ろうとしているのだろうと思う。日本全国が悩んでいることなのでこれはもう国から県から我々からちゃんと考えていかなくてはいけない。

Q 移住定住促進はどの課。

A 政策推進課。

Q 危機感はあるんだね。

A 例えば極端な話、佐久山地区に宇都宮への通勤住宅を立てて道路をよくする。10 年間は土地代入りません。その代わりに建築は地元業者を使ってください、と。

A 親園地区に関しては自宅の敷地内に息子、娘の家を建てられるというところが多い。街中ではそういう環境にないから、例えば味噌汁が冷めない距離の近所に家を建てた場合にも補助を出すとかすると出ていく人も少なくなるのでは。

Q 先ほど防災マップを地区ごとに作ったという話があったが、移住も同じ。地区ごとに事

情が違う。

A 大田原は給食費無料化だし、福祉関係もいい。お金がかからないということで宣伝していくほかないんじゃないかと。

Q(議員)お子さんが地元に残ってらっしゃる方は小さいころから残るよう言っていたのか。

A まあ、そうだね。

A うちには街中でも敷地内に建てられたから。二世帯住宅なら補助が出るけど別のところに建てると出ない。自治体内なら建てても補助を出しますよというような思い切ったことをしないと。

Q 行政視察報告には大田原との比較がない、大田原の現状と必ず対比させること。大田原はどういう環境でどうなっているのかの対比があればよい。

A 行政比較により先進事例はどこかということで視察地を選定していて、視察地は大田原市よりも進んでいる。視察後の提言は市に報告している。

Q そんなに難しく考えずにわかりやすくしてほしい。大田原市と先進地の比較があればよいのではないか。

Q 大田原市のまちづくりについて。町がさみしいがどのように詰めているのか。団体との協議は。住民の力を借りればできるのかとか。

A 市街地中心部が疲弊している。町の中に賑わいをどう創出するのか。道路拡幅は県がやっている。大田原市は6千平米の再開発をしている。町の中の居住者を増やす計画だが事業実施前の計画と後の比較状況が大切。あれだけお金をかけても通行量、人口等が減った。大きな事業をやっても成果は上がっていない。

Q 議会の中で専門的に議員提案はないのか。町の空き地はどうするのか。飲み屋街は貴重な財産だ。

A 空き家バンクは15軒、もうすぐ18軒になる。15軒のうち8軒は大田原市に移住してきた人が住んでいる。

A 議会基本条例を基本に議員が活動していけばよい。議員が執行部のやっていることに少し発言する程度では。

Q 私たちにできることは何か。私はゴルフのまちづくりに取り組んでいる。何のスポーツでもよいが議員がバックアップしてほしい。グリーンツーリズムも良いが絆みたいなものを作っていた方がよい。

Q 栃木県は県民の日がある。大田原市は何があるか。何かの日を作ってやらないと地方創生ではだめ。例えば大田原市民の日を作ってやらないと活性化しない。

Q 親園地区公民館対抗ソフトボール大会があるが市の大会がなくなった。何かやろうとするとけがの心配をすると何もできなくなる。けがや人が集まらないという理由で市のソフトボール大会、バレーボール大会が中止になった。地区でやっているのに市で中止とは無責任だ。

A 市の大会に行けないことに不満はある。

Q ボーリングなどわかりやすいものはせずにニュースポーツなどを行っているが。議員も目

を光らせてほしい。

Q 防災士養成に市は56,000円負担しているがその後のフォローができていない。

Q タブレットは議員。我々には見える化をしてほしい。

6. 議会報告会の所感等

- ・意見交換会のテーマが自由だったためかたくさんの意見が出た。気軽に話せてよかった。
- ・行政視察先の視察内容と、大田原市の現状が対比できる工夫が必要。
- ・参加者が少なかった。周知の仕方を改善したほうが良い。紙質を落としても全戸配布をした方がよい。
- ・男女比、老若比の偏りが激しい。何か方策を考えねばならない。
- ・いろいろな考え方があるが、やはり地元の議員は地元の報告会に参加したほうが良い。
- ・時間を守れず他班に迷惑をかけた。反省したい。